

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4270401500
法人名	有限会社 春陽
事業所名	有限会社春陽 グループホーム福田
所在地 (電話番号)	長崎県諫早市福田町3346番地5 (電話) 0957-21-6768

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年2月15日	評価確定日	平成20年3月17日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	4人, 非常勤 3人, 常勤換算 4.2人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 78 歳	最低	55 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山口医院、みぞこし歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年に高齢者シニア住宅として建てられた施設で、平成18年3月に法人変更となり、グループホームとして改築されたホームである。特養・老健等に勤務した経験を活かし、代表自ら介護に携わり、夜勤にも入られている。ご利用者はもとより、家族に“ここに入居させて良かった”“あそこのホームはいい所”と言われるようなホームにしたいと、日々努力を重ね、取り組まれている。職員も毎日の業務の中でも、「ゆったりとその人らしさを大切に」の理念に則り、その日その日のご利用者の生活を守るために、ご利用者と接するときは、ゆっくりと時間を取って対応するように心掛けケアしている。ご利用者の喜ぶ顔が見たいと、年1回の1泊旅行も継続して行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果をもとに、管理者が改善計画書を作成し、ホームの理念のわかりやすい明示・ホーム便りの作成と地域への配布・入居者主体の介護計画の作成・緊急時対応マニュアルの作成・継続的な研修の受講・ストレス解消策の実行などの改善に取り組んだ。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>時間の関係で、管理者が自己評価を行い、積極的に評価に取り組んでいるが、改善策の検討は一部の職員で行われ、全職員参加での自己評価・外部評価は行われていない。今後、職員へ自己評価・外部評価の目的や活用方法を理解してもらい、参加を呼びかけていく予定である。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご利用者のご家族・町内会副会長・民生委員・地域住民の代表者・市の職員・他のグループホーム施設長に参加していただき、3~4ヶ月に1回開催している。ホームの事業計画や日々の活動報告が行われ、出席者から出された意見に対して、次回の会議で検討したことの結果報告も行われている。意見をもとに、地域住民の方に夏祭りへの呼びかけを行い、多数参加していただくこともできた。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日頃の暮らしぶりや健康状態を手紙や時には写真を添えて請求書と一緒に郵送し、個々に合わせ、電話でもお伝えしている。遠方にお住まいの息子さんには、パソコンのメールに写真を添付して送り、とても喜ばれている。ご家族等に、意見・不満・苦情等を率直に言っていただけるよう、ご家族来所時に、なにか気がついたときはいつでも言って下さいと声かけている。ご家族から頂いた意見は記録に残し、記録を回覧し、職員間で情報を共有している。ご家族から、浄化槽の臭いが気になると意見があり、早速工事が行われた。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事やイベントは夜間や早朝のことが多く、ご利用者の参加が難しいため、参加できる空き缶拾いには今後参加する予定である。地域の方からの相談に乗ったり、地域の方へホーム行事への参加を呼びかけている。散歩の途中で気軽に立ち寄りてもらえるようなホームにしたいとの希望があり、地域の方とも顔なじみになっていくためにも、地域活動へ少しずつ参加していきたいと職員と話し合っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年(平成19年)の夏、高齢者シニア住宅から作成していた5か条からなる理念を、さらにわかりやすい理念にするために、常勤職員で考えた“ゆったりとその人らしさを大切に”という事業所独自の理念を作り上げた。理念の中に具体的に表現されていないが、地域の中で、その人らしく暮らし続けるために、その日その日のご利用者の生活を守るという代表の考えが含まれている。	○	事業所の理念は、その事業所がめざすサービスのあり方を端的に示したものです。理念の中に地域密着型サービスとして、具体的に表現されていないが、地域の中で、その人らしく暮らし続けるために、その日その日のご利用者の生活を守る支援・ケアが実践されている。地域の方や外部の方に対し、事業所の考えを伝えるためにも、具体的に表現していられることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議や日々の現場において、非常勤職員も含め、理念について話し合いや確認が行われている。利用者1人ひとりの個人のペースを崩さない声かけや誘導を目指し、その人らしさを尊重したケアの徹底に向け、職員全員が理念の実践に取り組んでいる。	○	現在行っているケアや声かけの仕方が、理念に掲げている“ゆったりとその人らしさを大切に”という理念に基き、本当に1人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアとなっているのか、今後も職員全員で検討は続けていきたいと思われている。更なる取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事やイベントは夜間や早朝のことが多く、ご利用者の参加が難しいため、参加できる空き缶拾いには今後参加する予定である。地域の方からの相談に乗ったり、地域の方へホーム行事への参加を呼びかけている。散歩の途中で気軽に立ち寄りてもらえるようなホームにしたいとの希望があり、地域活動へ少しずつ参加していきたいと職員と話し合っている。	○	地域密着型サービスとして、地域の中でその人らしく暮らし続けることが出来るための基盤作りとして、地域の方々がホームを訪れる機会を今後も作られると共に、地域で参加できるような活動や地域のお祭り等に、ご利用者も参加されることで、徐々に顔なじみの関係が作られていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果をもとに、管理者が改善計画書を作成した。わかりやすい理念の明示・ホーム便りの作成と地域への配布・入居者主体の介護計画の作成・緊急時対応マニュアルの作成・継続的な研修の受講・ストレス解消策の実行などの改善に取り組んだ。今回、時間の関係で、管理者が自己評価を行い、積極的に評価に取り組んでいるが、前回評価の改善策の検討は一部の職員で行われ、全職員が自己評価・外部評価を行う目的、評価結果をどのように活用していくかは十分理解しているとはいえない。	○	評価のねらいや活用方法について、全職員の理解を深めると共に、全職員で自己評価に取り組むことで、質の確保・向上につながると思われる。来年度、自己評価に取り組む時期を早めに設定しておくなど、今後の取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者のご家族・町内会副会長・民生委員・地域住民の代表者・市の職員・他のグループホーム施設長に参加していただき、3～4ヶ月に1回開催されている。ホームの事業計画や日々の活動報告が行われ、出席者から出された意見に対して、次回の会議で検討したことの結果報告も行われている。意見をもとに、地域住民の方に夏祭りへの呼びかけを行い、多数参加していただくこともできた。会議にご利用者の参加はまだまだなく、前回の外部評価の結果や今回の自己評価の結果を会議で報告はされていない。	○	運営推進会議をもっと活かしていきたいと考えている。地域との交流促進の足がかりにされたり、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かされる事を期待したい。またご利用者の会議参加の検討と共に、ご利用者の意見も反映されるような仕組みの検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が出席し、意見をいただいている。更新申請のため窓口を訪れたり、電話で料金改定についての相談を行った時も親切に対応していただいているが、ホームからの積極的な情報提供等は継続的には行われていない。	○	市の窓口へホーム便りを配布し、運営推進会議以外に行き来する機会を作っていきたいと考えている。市の担当者に、事業所の考え方や活動内容等についての情報提供を行うと共に、事業書が抱える課題について相談し、市の担当者と共にサービスの質の向上に取り組んでいかれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回程度、定期的に、ご家族に対し、ご利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態を、手紙や時には写真を添えて請求書と一緒に郵送し、個々に合わせ、電話でもお伝えしている。また面会時に金銭管理について報告している。職員の異動については、ご家族から聞かれたときに口頭でお伝えしている。変化・問題が生じたときに限らず、定期の報告以外に、こまめにご家族に連絡をとっている。遠方にお住まいの息子さんには、パソコンのメールに写真を添付して送り、とても喜ばれている。昨年秋に第1回目のホーム便り“ふくろう”を発行した。	○	年4回を目標にホーム便りの発行を目指し、今まで以上にご家族へ連絡を行いたいと考えている。ご家族に、より安心していただけるよう更なる取り組みに期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等に、意見・不満・苦情等を率直に言ってもらえるよう、目安箱を設置しているが、投函はなく、ご家族来所時に、何か気がついたときはいつでも言って下さいと声かけしている。ご家族から頂いた意見は記録に残し、記録を回覧し、職員間で情報を共有している。ご家族から、「浄化槽の臭いが気になる」と意見があり、早速工事が行われた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動・離職を最小限にするため、休みの希望に極力、応じている。2ヶ月に1回、食事会等、職員親睦の場を設け、職員のストレス解消に努めている。職員交代によるご利用者へのダメージを最小限にするため、ご利用者の状況・性格、その時その時の心情に合わせて、説明の仕方を変えたり、新しい職員から受ける介護・声かけが、できる限り従来と変わらない様にするため、新人職員への情報提供・指導を充分行っている。新人職員には、ご利用者とのコミュニケーションをたくさんとってもらうよう指導も行われ、1ヶ月間は引継ぎのため日勤を4名体制としている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者自ら、職員育成についての必要性を理解し、外部の研修会や事業者協議会主催の研修会に職員を参加させている。研修に参加できなかった職員には、申し送り・会議等において口頭で内容を伝達したり、資料を掲示・回覧している。日々の現場では、運営者や管理者が職員育成を行っている。昨年12月より、代表が職員の個人面談を行い、一定の基準で評価を行っているが、段階に応じて育成していくための育成計画の作成にはまだ至っていない。	○	事業所独自の勉強会の開催や外部研修受講後の伝達研修の更なる充実を図りたいと考えている。職員1人ひとりの能力を確認し、各職員の立場・経験・習熟度等に応じて段階的に力をつけていけるよう、職員毎の育成計画を作成されることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流・連携の必要性を認識し、グループホーム連絡協議会に参加し、2ヶ月に1回、質の向上を目指し、情報交換や意見交換を行っている。同業者との相互訪問や行事への参加、電話・メールでの日常的な情報交換・相談等も行われている。また職員親睦会の合同開催も行われている。	○	同業者との今以上の交流促進に向け、グループホーム同士で、職員の1日交代勤務の話しも出ているということで、更なる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談後、ご自宅や病院を訪問し、顔なじみの関係作りに努めている。体験入居の予定で来所されるが、そのまま入居されるケースが多い。ご利用者によっては、入居後ホームの生活に馴染まれるまで、代表者と管理者が交代で泊まりこんで介護し、徐々に馴染んでいただけるよう支援した。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者に戦争体験や生活の知恵など教えていただいている。偏頭痛のある職員がいるが、「こめかみに梅干しを張りつけるといい」と教えてもらったり、羊羹の作り方をご利用者とその家族から教えてもらったこともあった。職員は、意識的にご利用者に映画の話や本を読んで、思い出しながら教えていただく機会を作っている。職員が落ち込んでいると慰めてもらうこともある。また、遠くにいらっしゃるご家族の方と会われた時に一緒に涙をして喜んだこともあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者・ご家族の思い・希望・意向を伺い、どのように暮らしていくことを望んでいるかを把握して、プランに反映させている。明確に意向を表明していただけないご利用者についても、ご家族からこれまでの生活歴や生活習慣を聞き取りしたり、その時の表情から、思いを汲み取る努力を行っている。ご利用者1人ひとりのできること・出来ないことを把握し、職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者と話し合い、目標を設定している。地域の方との交流も徐々に多くなってきているが、介護計画に盛り込まれている方と、盛り込まれていない方がいる。ご家族に説明・同意を得る過程は踏んでいるが、「お任せします」と言われることが多く、ご家族の意見・気づきが充分反映できているとはいえない。	○	ご家族やかかりつけ医など、必要な関係者からの意見が反映された介護計画になっていくよう、会議に参加していただき、ゆつくりと話し合える機会を持てる様な取り組みをしていきたいと考えている。今後の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全ご利用者について、月に1回程度は検討を行っている。1日置きに15分間のカンファレンスを行い、問題点などの検討が行われているが、新たな計画の立案には至っておらず、見直しの時期が過ぎても以前のプランのままとなっている。ご家族に報告はされているが、見直しへの意見の反映は充分とはいえない。	○	プランに対する評価を担当性にする予定で、各職員が現在、評価のための情報収集を行っている。設定された期間が来るまでに、ご利用者・ご家族・関係者との話し合いの時期を予め決めておく等、現状に即した介護計画が作成されていくことを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者・ご家族に安心して暮らし続けていただくために、要望に応じて妹宅への外出同行や外泊支援、家族に代わっての通院介助を行っており、医療連携体制も整っている。年1回の家族参加の1泊旅行も行われている。	○	地域にお住まいの独居高齢者に対し、災害時の避難場所としての場所の提供も行う予定がある。今後の取り組みに期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医で受療していただいている。24時間相談できる体制や往診が可能ということで、ご家族の意向で事業所の協力医療機関に変更されることもある。かかりつけ医・協力医療機関の医師共、相談しやすい関係にあり、通院介助は日頃の状況を把握していることから、かならず職員が同行している。ご家族の希望がある時は、時間を合わせ、病院で待ち合わせするなどの対応をしている。受診結果は、ご家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居説明時に、終末期の対応についての話し合いを行っている。医療が毎日必要にならない限りホームで対応できる体制がある。現在、重度化された方や終末期の方はおられないが、急変時にどう対応するかについての話し合いもできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時や退職時に、代表者が説明を行い、個人情報保護に関する誓約書を、職員に書いてもらっている。ご利用者に対する声かけや介助はプライバシーに配慮して不快にさせないようにしている。食事中に飲み込めず吐き出される方のために、周囲のご利用者への配慮も考え、職員が工夫して作った中身が見えにくい袋が使用されている。職員会議で個人情報に関する話し合いが行われ、個人情報の取り扱いや書類の管理を含めて、全職員が実践できている。	○	現在行っているケアや声かけの仕方が、本当に1人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアとなっているのか、今後も職員全員で検討は続けていきたいと思われている。更なる取り組みに期待していきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者が望む過ごし方を支援し、事業所の日課としていることを拒まれた場合は、強制はせず、関心が持てる様ゆつくりと話をしている。「どのように過ごしたい」という希望を表していただけない方には、会話の中から、以前好んでしていた事や日課にしていた事などを聞き出し、希望を確認している。業務上忙しい時間帯はあるが、ご利用者の前では、ばたばたしないよう全員で注意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされているご利用者が多く、職員と一緒に食材の買出しに行ったり、皮むき・根きり等の調理の下ごしらえ・味見・下膳・食器洗いなど参加してもらっている。職員も一緒に食卓につき、必要な介助を行いながら、楽しい雰囲気を作るようにしている。畑で採れたブロッコリーやジャガイモ、大根、白菜などを利用した料理や、具雑煮・ちゃんぽんなどの郷土食も盛り入れている。月に1回、お寿司の日があり、近くのお店から配達してもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3日、1・2階の談話室横にある浴槽を利用している。毎日入浴を希望されるご利用者はおられないが、希望があれば対応も可能である。入浴する時間・湯温など1人ひとりの希望に添って対応している。入浴拒否の強いご利用者には、ご家族のことを話題にしながら入浴して頂いたり、ご家族が面会にお見えになっていたら、声かけしてもらおうなどの協力もしてもらっている。希望に添って、夏場は就寝前にシャワー浴を行ったり、年に1回、ご家族同伴の温泉一泊旅行も行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、ご利用者1人ひとりが好きな、編み物、植木の手入れ、スポーツ番組鑑賞、入居前から日課としていた、一日200問の計算問題を解くなど楽しめる場面作りを支援している。食事の前のあいさつや新聞の受け取り、洗濯物たたみなど、ご利用者の力を活かした役割の支援にも取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通院や行事としての外出以外にも、買い物やドライブ、散歩などの支援も行われている。外出を好まないご利用者にも、気分転換のために近くの畑を見に行ったり、玄関の花を見に行き、外気に触れるように支援している。入居前から習慣としていた外出先を話の中から引き出し、通院の帰りに、良く行っていた商店街の近くを車で通るなどの支援もされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及びすべての職員が、鍵をかけない暮らしが大切と考え、日中玄関等の鍵はかけていない。玄関にセンサーが設置され、チャイムがなるようにしたり、近所の方々に、利用者1人での外出の見守り・連絡依頼をしている。ご利用者が外に出られても無理に引き止めず、疲れられるまでずっと付き添い、連絡をして他の職員に車で迎えに来てもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員とご利用者、消防署・地域の方・消防設備会社の参加で、火災を想定した避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行われ、災害対策マニュアルも作成されている。運営推進会議において、地域に対しての協力の依頼も行われ、“災害時の自分たちの役割を言ってください”と協力的な意見を頂いている。災害発生時に備え、非常食や飲料水、毛布、布団類の準備もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の免許を持つ職員が、毎日、翌日の献立を作成している。ご利用者の要望があれば翌日以降のメニューに組み込まれている。食事・飲水摂取量を把握・記録しており、定期的に体重測定を行い、血液検査の結果に基づいた医師からの助言を得ている。食事制限のあるご利用者には、大きくて浅めの食器を使用し、量が少なく見えないような工夫もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の家具や物品は、入居者の落ち着けるような色の物を選定し、使用用途の良い物を使用している。ホームの玄関には、職員の家族が作った照明付きの置物や季節に合わせた手作りの装飾品が飾られている。光の強さはご利用者の視覚の刺激にならないよう配慮し、音の大きさは、ご利用者と相談しながら調節している。換気にも注意し、定期的に空気の入替えをしている。芳香剤を使用し不快なおいを無くしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に浴室・台所・洗面所・トイレが設置され、バルコニーもある。ご利用者・ご家族と相談し、使い慣れた家具や装飾品、家族の写真など持ち込んでもらっている。		